

平成 18 年度海外研修派遣

大阪市立総合医療センター 中央放射線部 福西康修

1. 期待していたこととその結果

インターネット等の情報通信の発達により医療分野においても諸外国の情報がリアルタイムに日本に届くようになりました。ですがそう言った情報はメディアを通じることで、場合によっては情報を発信した本人の意図とはまったく異なった伝わり方をし、本質を理解することはかなり難しいことが多いように思います。たとえば簡単な情報のやりとりだけならメールでも可能ですが、相手の心の奥底をかいだ見つつ意見を交わすためには電話が必要であり、やはりベストは相手の目を見ながら会話することだと思います。私の今回の最大の目的はまさに米国での医療の imaging technology を肌で感じることでした。

その目的を叶えるための、個人では決してかなうことのない最高のシチュエーションを、現実のものにしていただいたのが、今回のスタンフォード海外研修会でした。はっきり言って本当に短く瞬く間に過ぎてしまった一週間ではありましたが、米国スタンフォードにおける imaging technology の現状を自分自身の目で見、聞き、そしてふれることができた一週間でした。研修の中でもよく出てきた言葉ですが、まさに exciting な時間でした。

広大な米国の中のスタンフォード大学という限られた範囲内ではありました、先端を走るスタンフォード大学が今何を目指し、どういう状況であるかを大変高名な先生方に明快にお話し頂き大変良く理解できたと思います。異なる気候、異なる言語、異なる文化の中ではすべてが新しくそして先進的に見えてしまいます。しかしよく見れば街には日本車があふれ、病院には見慣れた装置が活躍している。研修の日程が進むにつれて、日本の医療の長所と短所、レベル、さらには自分の取り組んでいるもののレベルや必要性が輪郭だけですが理解できたように思います。

2. 得られた成果とそれをどう生かすか

私の専門は CT, Angio, Image processing と言った部分ですので、今回の研修内容としては、その部分がやや少なく、専門分野での知見を深めるという部分ではややもの足らない部分もありましたが、スタンフォード大学放射線診断部門の総長であるグレイザー教授がどういう考え方の基に何を進めていくかとして、今その分野はどのような状況にあるかを聞くことが出来たことは貴重であり、医療人としての視野をより幅広くすることが出来たと思います。今後、自分の属する施設の方向が少しでもよりよく進むように考えたいと思います。また職場や教育の環境に関してもまったく異なった状況を目の当たりにし、大きなインパクトを受けました。このインパクトを現状改善に向けて役立てていきたいと思います。

さらに私が得たもうひとつ大きな成果があります。それは日々の仕事に押し流され、かけりかけていた探求心や昔ながらに言う努力というものが宿る心の中に、強い刺激を受けたことです。今回の一週間の研修をともに過ごした方々は日々の努力を惜しまないであろうすばらしい方ばかりでした。みんなの意気込み、姿勢に背筋が伸びる思いでした。この気持ちを大切に、今後も技術者としてそして医療人としての自己研鑽を続けていきたいと思います。可能なれば、自分の英語力を高め、またこのような企画に参加できればと思います。

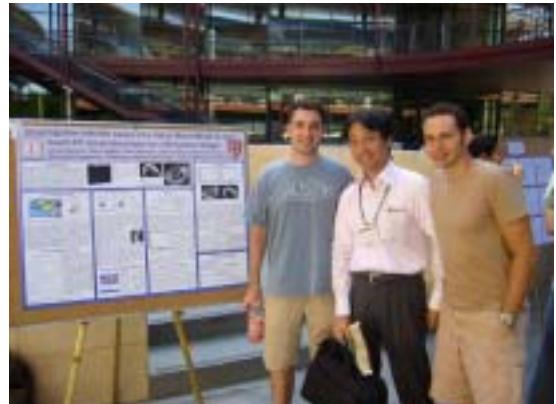
3. もっとも印象に残ったこと(セミナーとイベント)

■ セミナー

やはりもっとも印象に残ったセミナーはグレイザー教授の Future of Radiology と題した講義です。専門分野に関わらず画像を取り扱う医療技術者には大変為になるお話だったと思います。

■ イベント

ギルロイの街、サンフランシスコの街そしてスタンフォード大学のすばらしい建造物や環境、どの風景も別世界といえる印象的なものであります。昼間の焦げるような日差しを受けた後の身の引き締まるようなクールな夜に、ほぼ毎晩今回の研修をともにした方々とビール片手に語り合い、また自主的にお話しや講義をしていただいた夜の集いがとても充実して心に残ったイベントでした。



4. 今後の海外研修に期待すること

何かをしよう、何かをつかもうとあがいている者にとって、現状とはまったく異なった環境や文化を知ることは、狭くなりがちな視野を大きくすることに大変役に立つと思います。そう言う意味で海外研修は国内の他施設での研修とはまったく異なり、大きな成果を得ることが出来る研修であると思います。しかし、さらに自分が突き詰めようとする専門分野でのヒントや新たな見解を得るためにには今回のプログラムではやや問題があるように思います。理想的なパターンとしては、今回のように午前中は著明な様々の先生方の講義を聞き、午後はいくつかの専門分野に分かれたグループでのワークショップやレクチャーを受けることができれば各個人と施設の方々とのコミュニケーションも増え、さらに充実感は高まるように思います。しかしそういったセミナーのプログラムを組むことはかなり贅沢で難しいことだと思いますので、もともとの募集や選出時に分野を考慮した人の集め方をする方がいいと思います。